

第7.5号 通巻14巻第2

1994年8月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

a (0775) 85-4397

₹ 524-02

守山市服部町2250番地

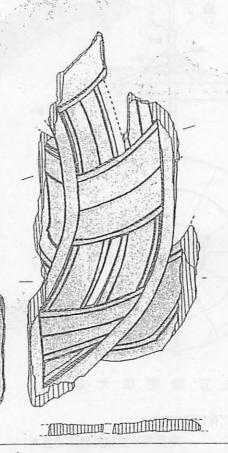
全国初、「衣笠」の立飾りが出土

1. 八ノ坪遺跡

昨年12月から実施しているハン坪遺跡(播磨田町所在)の発掘調査地から、全国で初めての出土例となる「衣笠」の立飾りが見つかりました。

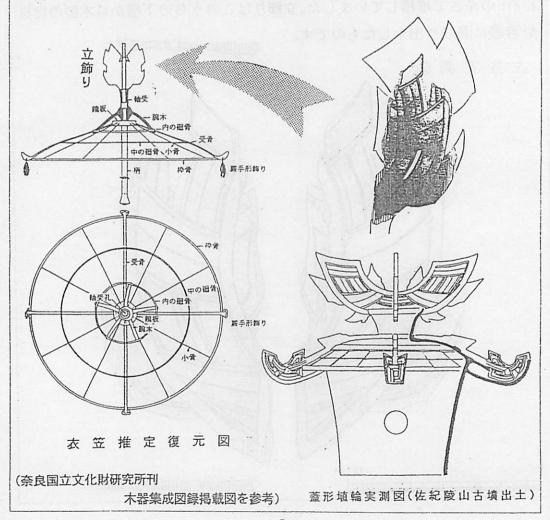
出土したのは古墳時代前期に埋没した旧河道で、幅は5~8 mを測り、上層に褐色の粘土、下層には黒灰色の細かい砂、そして底には粗い砂が約1.8 mの深さで堆積していました。立飾りはこのうちの下層から木製の農具や容器に混じり出土したものです。

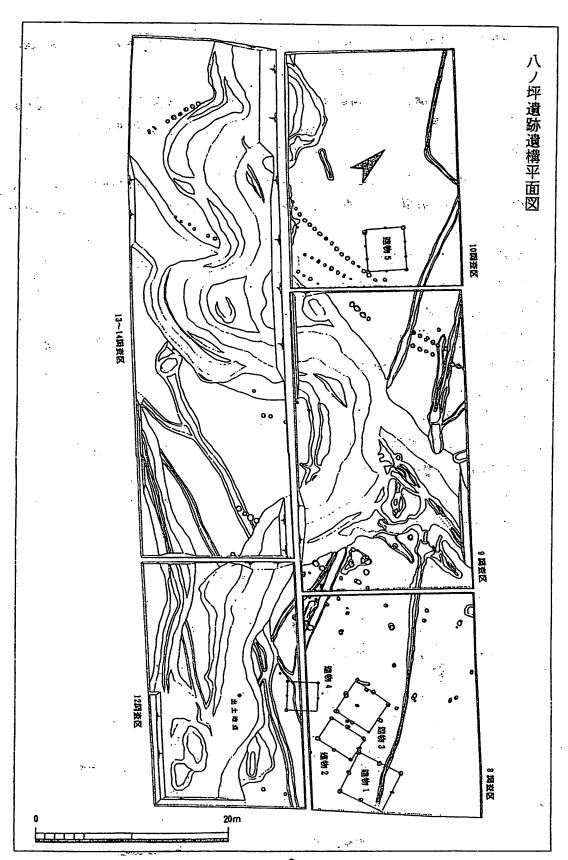
衣笠実測図



さて、衣笠とは当時の有力者が外出時に、つきびとにさしかけさせた「日傘」の一種と考えられています。そして、この衣笠の頂上は立飾りによって飾られていたことが衣笠を模した蓋形埴輪からうかがうことができます。今回出土した立飾りは現存長29.4cm、幅13.4cm、厚み4~8 mmの大きさです。 円弧状の文様帯を縦横に組み合わせた「組帯文」とよばれる文様を削りだしている他、上下2箇所に長方形の透かしをあけ、外側2箇所と内側1箇所に鰭状の突起をつけ、さらに黒漆を塗るなどたいへん装飾性に優れたものといえるでしょう。

今回出土した立飾りは奈良市佐紀陵山古墳(日葉酢姫陵)から出土した 蓋形埴輪の立飾りにたいへんよく似ています。この古墳は全長200m以上 もある前方後円墳であることから、出土した立飾りで装飾されていた衣笠 の持主もかなり有力な豪族であったこと想像することができます。



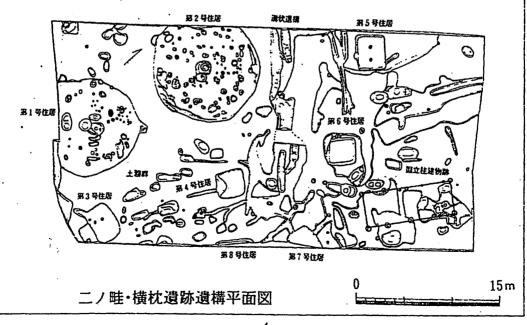


弥生時代中期の大型竪穴住居を発掘

2. 二ノ畦・横枕遺跡第26次調査

守山町字下横枕で店舗建築に先立ち発掘調査を実施しました。調査の結果、大型の竪穴住居2棟と小型の竪穴住居6棟、掘立柱建物1棟、土壙、溝などがみつかりました。1号住居は平面の形が八角形をした住居と考えられ、床面積が100㎡を越える大きな住居です。中央には直径約60cmの土壙があり、その南東及び北側には炉跡とみられる焼け土が直径50cmほどの大きさで5ヶ所みつかっています。また、2号住居は直径11.2mの円形(多角形の可能性もある)住居で、住居の中央には1号住居と同じように大きく深い穴があり、中には炭化した木がたくさん詰まっていました。屋根を支える柱は10本あったと考えられます。小型住居は(3~8号住居)一辺が3m前後(床面積は10㎡前後)のもので、大型住居の東側から6棟がみつかっています。遺物は住居などから多量の弥生土器をはじめ、石斧・石を竹・石鏃(やじり)・石鏃(網のおもり)・石鏃などの石器と鉄鏃や用途不明の鉄製品などが出土しています。

二ノ畦・横枕遺跡は南北550m、東西400mと近畿第2位の規模を誇る弥生時代中期の環濠集落です。しかし、不明な点が多く、その実態は明確ではありません。その意味から今回みつかった大小の竪穴住居群は、居住者の階層差を示す資料として注目されます。

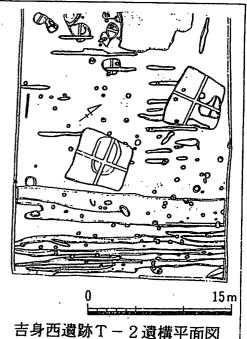


3. 吉身西遺跡第60次調査

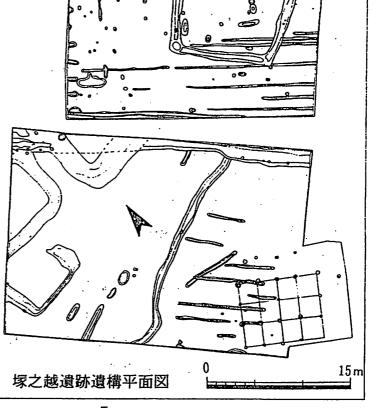
目田川改修工事に先立ち、昨年度から 継続調査していた吉身西遺跡の発掘調査 も6月30日をもって終了しました。旧河 道が検出された調査区(T-1)の東側 の調査区(T-2)から新たに竪穴住居 3棟、掘立柱建物、土壙などが検出され ました。竪穴住居は弥生時代後期のもの で、床面から高杯や甕などの弥牛十器が 出土しています。土壙は弥生土器後期か ら古墳時代前期のもので、墓ではないか と考えています。掘立柱建物は古墳時代 前期のものとだと考えています。

4. 塚之越遺跡の調査

5月中旬から物部小。 学校の西側約 200mの 地点で、分譲住宅建築 に先立ち調査してきま した。調査の結果、鎌 倉時代から室町時代に かけての溝と掘立柱建 物、古墳時代中期の方 形周溝墓、弥生時代後 期から古墳時代前期に かけての方形周溝墓群 がみつかりました。方 形周溝墓のうち古墳時 代中期のものは、長辺 13m×短辺12mの長方 形をしており、墳丘や 主体部は削平されてい



吉身西遺跡T-2遺構平面図



ました。周囲にめぐらされた周溝からは須恵器の甕・杯身、鉄鏃などが出土しました。弥生時代後期から古墳時代前期にかけての方形周溝墓は一辺10m前後のものが3基連結した状態でみつかりました。この方形周溝墓群はさらに西側に広がることが予想され、平成3年度に調査された方形周溝墓群と合わせ、一帯がひとつの墓域となっていたことが考えられます。

□調査中 □.

5. 欲賀遺跡の調査

欲賀地区ほ場整備に伴う調査は、D区とD-2区の約3,300㎡について5月末に航空写真測量を実施して一応終了し、そのあと塚墓1基と土壙墓2基の掘削を行いました。塚墓は中央に墓穴とみられる土壙があり、そこから五輪塔の一部が出土しています。土壙に堆積した土は焼土層が大半で、幾層か炭層が確認できました。土壙墓のうち1基は上層から下層まで真っ

黒な炭層で埋まっており、露出していた五輪塔の一部を含め2基分の空輪・風輪・水輪が出土しました。またここからは、土師器の皿に混じって香炉の底部や灰釉の徳利形の瓶、それに口縁部を欠いた菊花文の仏花瓶が出土しました。炭層に混じってわずかに骨片もみつかっていることから、ここで火葬が行われたのではないかと考えられます。この土壙墓の年代は、出土遺物から鎌倉時代後半ではないかと考えられます。調査は現在D区の南にある畑(E区)の表土掘削を行っています。

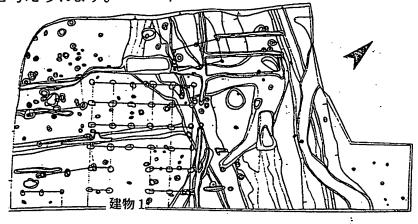


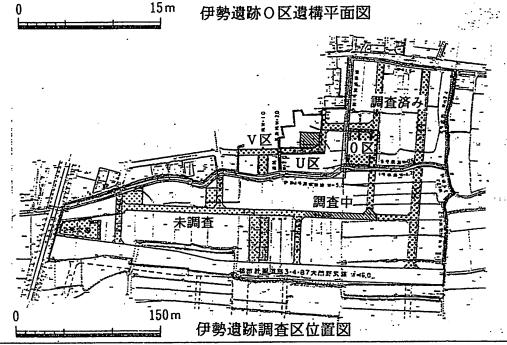
***。 ***かい 瀬戸焼仏花瓶(1/2)

6. 伊勢遺跡第28次調査

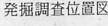
土地区画整理に伴う調査は平成6年度工事予定地を終了し、現在は平成7年度工事予定地及び保留地の調査を行っています。平成7年度工事予定地でも弥生時代後期の遺構がみつかり、この時期の集落がさらに南側に広がることが確認されました。これに対して、鎌倉時代の遺構はあまりみつからず、この時期の集落域は伊勢町集落やその周辺に限定されるようです。このうち、1号公園予定地にあたる0区からは、平安時代から鎌倉時代の掘立柱建物が5棟検出されています。中でも建物1は5間×5間以上の規模で、柱穴には根がための石や礎石が入れられており、屋敷の主が居住す

る母屋的建物であったことが想像されます。また、調査対象地の北側のV区とU区からは屋敷地を区画するとみられる幅1~2 m、深さ1 m程の溝や井戸などがみつかっています。区画溝は現集落の方向にのびており、鎌倉時代の集落と現在の集落が一部重なっていることがわかりました。井戸は5基みつかっていますが、うち3基は近接して掘られており、なんらかの理由で順次掘り直したことが考えられます。5基の井戸のうち1基が縦板構造(枠に木の板を使用)、2基が石積み構造でつくられていましたが、いずれも壊れており、井戸枠は底の部分しか残っていませんでした。おそらく新しい井戸に再利用するため、廃棄の時に板や石を抜き取ったのではないかと考えられます。











☆ 二ノ畦・横枕遺跡の現地説明会から ☆ 本号で報告しました二ノ畦・横枕遺跡において、去 る7月17日に現地説明会が開催されました。当日は大 阪など遠方の方も含め、150人程の見学者があり、大型

竪穴住居などの説明に聞きいっていました。

☆ 発掘体験学習会から ☆

埋蔵文化財センターは播磨田町八ノ坪遺跡において、去る7月31日に発 掘体験学習会を開催しました。これは遺跡の発掘作業に挑戦し、千数百年 間地下に眠り続けてきた遺物を実際に発掘してもらおうと企画したもので、 市内の親子連れなど30人が参加しました。参加者は猛暑にもめげず、スコ ップや移植ゴテを手に古墳時代の川跡から次々と土器や木器を掘り出して いました。わずか2時間程の発掘体験でしたが、「暑さ」・「しんどさ」 「遺物が出土する時の感動」など、いろいろなことを体験していただけ たようです。発掘作業後、昼食がわりに「赤米」の試食も行われました。 参加者の皆さん、お味の方はいかがでしたでしょうか?